

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

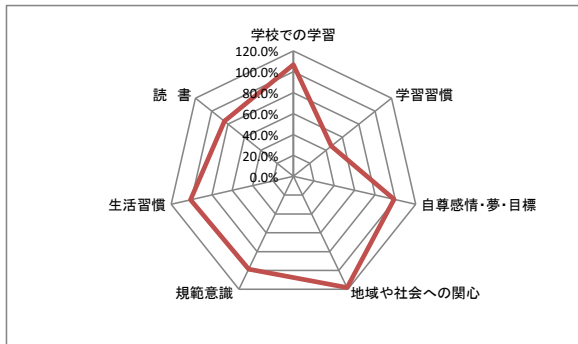
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・話す・聞く、読む能力が高い。特に言語についての知識理解・技能が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、自分の考えの理由にし、まとめて書く問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・全体的にやや下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・加法と乗法の混合した整数と小数の計算の問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された計算の方法を解釈し、かける数やわる数を選び、計算しやすい式にして計算する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>学習中、「友達との話し合い」をよく行っていたと答える児童が多く、学校での学習に真面目に取り組んでいることが分かる。</p> <p>宿題を毎日する児童は多いが、自分で計画を立て1日当たり1時間以上勉強をしている児童は少ない。</p> <p>このようなことから、学校での学習態度は、向上しているが、学習習慣に課題があるといえる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・分かる授業の実施(めあて・ふりかえり)し、学びあう力を育てていく。
- ・朝自習・チャレンジタイムの時間を使って学力の定着に継続的に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習強化週間を設け、宿題・家庭学習の計画的な実施と定着を目指す。
- ・読書や学習習慣の大切さを通信や学級懇談会等で、今後も発信していく。